

# 要旨（仮訳）

2023年5月、国際専門家と国際原子力機関（IAEA）職員で構成される専門家チームは、福島第一原子力発電所事故後の除染活動で発生した除去土壌の減容化と再生利用に関するIAEAの環境省に対する支援に関する付託事項に沿って、環境省と、第1回専門家会合を開催した。

第1回専門家会合期間中、専門家チームは、環境省と、福島県内の自治体や関係者の全面的な協力を受けた。一週間にわたり、東京で幅広いトピックが議論され、また、専門家チームは、中間貯蔵施設や実証事業の現場視察、町長・村長や除去土壌の減容化や管理下での再生利用（訳注：以下「再生利用」という。）に関連する事業に長年携わってきた方々への表敬訪問や意見交換など、福島で実地体験をする大変有意義な機会を得た。第1回専門家会合では、専門家チームに福島の実情をより深く理解する機会を提供するために多くの時間が割かれた。第1回専門家会合の成果は、サマリーレポートとしてまとめられ、公表された<sup>1</sup>。

第2回専門家会合は、さらなる議論（例：除去土壌の再生利用と最終処分の安全性と基準に関する考え方、利害関係者とのコミュニケーション手法、国際社会への情報発信）を行うため、2023年10月にウィーンのIAEA本部において対面方式に加え、日本からのオンライン参加も含めたハイブリッド方式により開催された。第1回専門家会合終了後、IAEAは第2回専門家会合の開催に向け、環境省と緊密な連携を取りながら準備を進めた。

第2回専門家会合では、環境省から、除去土壌の再生利用及び最終処分のための制度的取り決めの現状、コミュニケーションや情報発信手法の進捗状況、IAEA安全基準との整合性に関する環境省の見解の共有を含め、2023年5月に開催された第1回専門家会合後の進捗に関する説明があった。専門家チームは、様々な国（例：英国、ベルギー、ドイツ、米国）における、除去土壌及び放射性廃棄物の再生利用及び最終処分に関連する取組の事例を紹介した。さらに、オーストリアで放射性廃棄物の分別と処分が実施されているサイバースドルフ原子力技術施設における現地調査を実施した。

専門家チームは、第2回専門家会合の間にも大きな進展があったことを指摘した。さらに、環境省が実施している除去土壌の管理のための取組や他国の関連する取組が共有され、環境省による除去土壌の再生利用及び最終処分に関する取組に対する、IAEA安全基準に照らした評価について、詳細な議論が行われた。

このサマリーレポートは、専門家チームにより作成・承認され、IAEAのウェブサイトに掲載された。次のステップとして、第3回専門家会合が2024年の早い時期に日本で開催される予定である。したがって、作業はまだ進行中であり、専門家チー

---

<sup>1</sup> 第1回専門家会合のサマリーレポートは、IAEAのウェブサイトですぐ入手可能：  
<https://www.iaea.org/sites/default/files/23/08/summary-report-140823.pdf>

ムは、今後開催される第3回専門家会合終了後に結論を出すべく、環境省と密に連携を取りながら、完全なレビューを続ける予定である。